

日本人の歴史認識を考える2・11にいがた平和集会

戦後70年 靖国参拝の何が問題か

日時 2月11日（休）13：30～15：30

会場 新潟ユニゾンプラザ大研修室（新潟市中央区上所2-2-2）

講師 内田雅敏さん（弁護士）

靖国神社参拝批判に対して『戦死者の追悼・慰靈はどこの国でもやっていることであり、批判されないわれはない。内政干渉だ』とする意見がある。そうだろうか。なぜ、このことに限って、中国・韓国等は「内政干渉」をするのだろうか。世界はなぜ、靖国神社参拝に懸念を抱くのだろうか。世界が危惧を抱くのは、戦死者に対する追悼・慰靈だろうか、それとも靖国でそれを行うことを問題にしているのだろうか。そのことを考えるためには、まず靖国神社がどんなところか、どのような歴史観に立脚しているか、世界は一体何を問題にしているのか、正確に知ることから始めなくはならない。（『靖国参拝の何が問題か』（平凡社新書）「はじめに」より）



2・11にいがた平和集会とは

2月11日の「建国記念の日」は、植民地支配や侵略戦争を美化し、天皇を賛美する日だった戦前の「紀元節」を、1967年に政府・自民党が各界の反対を押し切って開始した日で、今年で49回目となります。県平和センターは、例年この日に日本人の歴史認識を問う集会を行っています。

会場地図

内田雅敏さん

<プロフィール>

1945年生まれ。早稲田大学法学部卒業。弁護士。関東弁護士連合会憲法問題協議会委員長を経て、現在、日本弁護士連合会憲法問題対策本部幹事。著書に『「戦後補償」を考える』（講談社現代新書）、『想像力と複眼的思考－沖縄・戦後補償・植民地未精算・靖國』（スペース伽耶）などがある。



主催 新潟県平和運動センター 護憲フォーラムにいがた

連絡先 TEL025-281-8100 E-mail kenheiwa@arion.ocn.ne.jp